

第62回北海道小学校長会

総会・研修会 会長就任挨拶

令和元年5月13日



只今、会長としてご承認いただきました札幌市立豊平小学校校長の大石幸志です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

第62回北海道小学校長会総会・研修会の開催に当たり、ご承認いただきました令和元年度の役員を代表して、ご挨拶申し上げます。

はじめに、本日、ご来賓といたしまして、北海道教育委員会 教育長 佐藤嘉大様、北海道都市教育長会 会長 長谷川雅英様をはじめ、北海道小学校長会が、日頃から「チーム北海道」としてご支援いただいている教育関係団体の皆様、そして、歴代の道小会長及び役員の皆様方にご臨席をいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

また、新年度が始まってまだ1か月余りのお忙しい中、全道各地より代議員・理事の皆様方にお集まりいただいたことに、心から感謝申し上げます。

この北海道小学校長会は、昭和32年の発足から62年目を迎えた伝統ある組織です。これまで、北海道の教育が幾多の困難に直面する中、「正論を以って正道を歩む」という理念の下、校長の職能向上と北海道教育の振興・発展を図ることを目的として、長きにわたって活動を行ってきました。今後も、このような伝統を引き継ぎ、1,014名の会員の皆様と力を合わせながら努力を積み重ねてまいります。

そして昨年度は、「分科会の更なる充実」と「スムーズな運営」を目指した全連小北海道大会函館大会において、全国の校長先生から高い評価をいただきました。会員の皆様をはじめ、開催地、函館市小学校長会やご協力いただいた校長会に心から感謝申し上げます。

さて道小は、今年度、「北海道教育の質の向上をめざし、教育課題に正対して取り組む校長会」を目標に、諸活動の一層の充実を図っていきたいと考えています。校長会の使命は、各学校の「教育の質の向上」にあると言えます。そのためには、校長の明確なビジョンと鋭い時代感覚の下、創意ある教育活動と学校組織の活性化を図り、子どもの成長の姿で教育活動全体を評価・改善していく粘り強い取組が必要です。そのためにも、校長が「教育の質の向上」という観点を常にもち、教育改革や本道の教育課題に正対できる学校経営を実践していきます。そして道小は、各学校が教育改革や教育課題を踏まえた創意ある教育活動が推進できるよう、学校現場の視点での実践交流や意見表明、実効性のある要望活動を行っていきたいと考えています。

次に、北海道小学校長会として、重点として取り組むこととお話しします。

今年度、各学校においては、来年度から全面実施される新学習指導要領の理念の実現に向けて、新しい教育活動を計画・推進するとともに、学習評価を学校全体で取り組むための組織や研修が必要になってきます。また、学校における働き方改革において教員の長時間勤務の是正が求められる一方、教員採用選考検査の倍率低下や人材確保などが課題となっています。

こうしたことを踏まえ、重点を4点に絞ってお話しします。

1点目は、「授業改善」です。

各地区においては、教育の質の向上を目指す上で、学習指導要領の改訂にこたえる「授業改善」を重要視し、教師主導の「教え」から児童主体の「学び」への転換に向けて実践を重ねているところです。今年4月17日に柴山文科大臣から中教審に諮問された「新しい時代の初等中等教育の在り方について」には、知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」と教科教育等を評価する一方、子どもたちの語彙力や読解力の課題が指摘され、諮問内容の一つに、「とりわけ小学校において、基礎的読解力などの基盤的な学力の確実な定着に向けた方策」が取り上げられています。主体的・対話的で深い学びの具現が形式的な授業展開にならないように、そして、学力の確実な定着に結び付けていくように、校長としてリーダーシップを発揮していくことを期待します。また、学力の確実な定着は、地区の教育局や市町村教育委員会などの行政機関と積極的に連携し、地域の実態に正対して、独自の対応を取っていくことが必要不可欠です。各地区校長会が創意工夫しながら努力を続けていることに敬意を表するとともに、今後も粘り強く改善に向けた取組をお願いします。

2点目は「学校における働き方改革と業務改善」です。

学校における働き方改革のねらいは、「自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うこと」であります。一人一人の教員がもてる力量を十分に発揮することが、教育の質を向上させることにつながります。切れない鋸で木を切っている、時間がかかるだけです。鋸の歯を研ぐこと、つまり、教員が自分を磨く時間を重視することが、長時間労働の改善につながると考えます。緊急かつ重要な業務や重要でない業務に時間の多くが取られていないか、校長がリーダーシップを発揮して、学校の業務をスクラップアンドビルドすることが肝要です。緊急ではないが重要な研究と修養の時間を十分に取ることができれば、教員の授業力や指導力が高まり、やがては、業務改善に大きな効果が出てきます。

働き方改革を進める上で課題となっているのは、北海道の地理的制約を超えて教育の質を高めるツールであるICT環境に、地域間格差があるという現状です。また、転送電話や支援体制のための人材確保等にも地域間格差が見られます。さらに、若手教員の急増、期限付き教諭の不足、小学校教員の採用選考試験の競争率の減少など、人材育成や人材確保が学校現場に重くのしかかっています。

校長会は、これらの課題にも正対して取り組み、業務改善を進め、魅力ある学校づくりを進めることが急務です。さらに、各地区校長会と連携して、地域間格差や人的配置の問題が解消されるように提案や要望を行ってまいりたいと考えています。

3点目は、9月13日、14日に苫小牧市を会場に行われる第62回北海道小学校長会教育研究胆振・苫小牧大会についてです。

道小の中核となる活動であり、校長会の目的そのものである「校長の職能向上」と「本道教育の質の向上」を目指して、研鑽を積んでいく大きな機会となります。特に、分科会については、参画型の充実を目指して、工夫を重ねてきました。今後、更なる改善を目指し、日常の学校経営に結び付く大会にしていきたいと考えています。胆振東部地震の発生から、約1年後の大会となります。その中で、胆振管内校長会の皆様は、万全の準備をしてくださっています。道小の総力を結集して、実り多い大会になるように、支援していきたいと思っています。

最後に、道小の組織及び運営についてです。

道小では、平成7年に会費の値上げが行われて以来、21年間据え置かれていた会費を、平成29年度から値上げをすることに決定しました。平成7年当時には、1,596人であった会員が、現在では1,014人となっています。学校数の減少が、道小の財政状況を大変厳しいものとし、平成27年には、基金の一部を繰り入れました。

各地区の理解を得た平成29年度の会費の値上げにより、10年先を見据えた財政の立て直しが図られました。同時に、メリハリのある組織運営の在り方を検討し組織改革を継続してきました。現在、会費の値上げと組織改革により、財政は健全化していますが、将来的には、会員数の更なる減少、消費税10%の導入や物価上昇などのマイナス要因により、再度、財政の逼迫が想定されます。昨年度の企画研修委員会では、道小の組織力の充実・発展を目指すための組織改革、更なる会費の値上げをしないための創意工夫を柱に検討を重ねてきました。ただし、一定の結論を導くには3回の会議では難しいため、第5回理事研修会に報告としてまとめ、今年度に継続的な検討を行っていくこととしています。今年度は、5回の企画研修委員会を開催し検討していく予定です。会員の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

結びになりますが、各地区校長会が道小という組織を通して、今後も、大同団結していくことが大切と考えています。それが全国連合小学校長会の活動の充実にもつながっていくと確信しています。

これからも、この道小という組織を活性化させるとともに、北海道教育委員会、北海道中学校長会、北海道PTA連合会、民間教育団体等の教育関係諸団体などとも連携を図りながら、「未来を見据え、チーム北海道として進む道小」として北海道教育の質の向上に努め、令和元年の第一歩を踏み出していきたいと考えています。

ご来賓、教育関係諸機関の皆様方におかれては、本会の発展のために一層のご支援をお願い申し上げますとともに、ここに参加していただいているすべての皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。